

石川島記念病院 看護部 松井智子・加藤和子

- 功 績** 新型コロナ感染症が10月に入り落ち着いたことを機に、看護職の教育計画の見直しを行い、毎日、教育研修を実施するよう指示し。1ヶ月毎に教育研修計画を作成・実施し、職員の知識・技術の低下を防止。さらにプレゼン能力を高めた功績。
- 推 薦 者** 丸山 恭子
- 推 薦 理 由** 急遽の依頼にも関わらず、1ヶ月毎の教育研修計画を作成・実施したことで、職員の知識・技術の低下を防止し、プレゼン能力を高めた功績は大きいので推薦する。

内 容

どの施設でも教育計画は、4月に年間計画を作成し、その計画に沿って実施していることと思う。しかし、9月に急遽、病院機能変更によりコロナ専門病院となったが、10月に入りコロナ感染が落ち着いたことで、患者さんがいない状況が続き、職員は日々どのように過ごせば良いのか戸惑いが出てきていた。そこで、患者さんがいなければ自分達の知識・技術を再度見直し、次に備える準備の期間と捉え、教育委員である松井と加藤は、1ヶ月毎の教育計画を立案した。講師への依頼、看護職お互いが講師・受講者となり研修を行う内容のものや1つのテーマについてグループワークする研修などの企画をし、計画通りに3ヶ月実践することができた。その一つとして、健育会看護部が基盤としている「ナイチンゲール覚え書」について、毎日抄読会を実施し、グループで話し合いを行った。さらに、金井先生が開発したKOMIチャートを活用し、事例をまとめ発表会を開催することができた。これらは、ナイチンゲールの看護論を通して患者さんの理解を促し、実践した看護の振り返りができたのではないかと考えている。これまで、看護研究やTQMでの発表することで精一杯の状況であったが、教育計画にそって看護職員それぞれが役割を担い発表する機会を多くもてたことは、プレゼン能力を向上することにも一助したのではないかと考えている。また、リハビリ科と合同で事例発表をおこない、医療チームとして患者さんへの関わりを振り返ることができたことは、今後、チーム医療を推進する土台になると考えている。

さらに、松井・加藤は、教育の企画のみならず、グループ病院で人員不足の話があった際、応援看護師として自主的に手上げをし、グループのOne Teamを実践しており、病院に対する貢献は大きいので今回推薦する。